

# 山田の山林から平安時代の蔵骨器が出土！

山田の県道内牧坂梨線から約200m入った山林の中から、平安時代の墓が発見されました。この一帯は平原古墳群といい20m級の円墳の他、平石を組み合わせた箱式石棺が多数発見されています。昭和56年の県道改修

工事時に丘陵先端部に位置した円墳(5世紀前半が発掘調査され、内部をベンガラで赤く染められた石棺の中から2体分の歯や剣、豎櫛(たてぐし)などが見つかっています。今回の墓は古墳群が点在する尾根の最頂部に位置する円墳の裾部で、自然に崩壊した土手面より発見されています。



▲蔵骨器

発見された墓は地中に穴を掘り、骨を納める蔵骨器(ぞうこつき)を埋納した火葬墓で、丁寧に石組が施されていました。蔵骨器内には火葬された人骨が残り、その中から2点の歯が発見されました。歯の発見は被葬者の年齢検証のための絶好の資料となります。

石組内の蔵骨器は、8世紀末の須恵器すえぎ：古墳時代に朝鮮半島より伝わった窯で焼いた陶質の土器の高台付壺に日用品の鉢を流用し蓋(ふた)としていたものでした。

火葬は8世紀初めに仏教と共に伝わり、次第に中央から地方へ広がっていきます。しかし一般に普及するのは中世以降のため、貴族などの限られた人や特別な地位のある人に限定されます。手厚く葬られた被葬者は、この地に関係した僧侶あるいは有力な地位にある役人や地方豪族であると考えられます。

石組の埋葬施設構造など、良好な状態において火葬墓の発掘調査を行なった例は県内でも稀であり、一躍脚光を浴びています。



▲発見された火葬墓

## 弥生時代の大集落 宮山遺跡の発掘調査について

教育委員会では、阿蘇西小学校体育館新築に伴い、校舎西側の建設予定地で発掘調査を行っています。一帯は宮山遺跡といい、今から約1,700年前ごろの弥生時代後期後半から終末期の集落(ムラ)の跡です。

昭和46年の阿蘇西小学校建設時に現在のグラウンドで発掘調査が行われ、弥生時代終末期の家の跡や墓が発見されています。家の跡からは、土器、石器、鉄器などの道具の他、焼けて炭となった米が出土し、阿蘇谷における稲作実施の確証を得た発見であると注目を浴びました。その後の分布調査などにより、学校一帯を中心として広範囲に土器片が散在することから、阿蘇谷最大級の弥生時代の集落跡であることが予想されています。その表れに、今回の調査地は、遺跡の中心部から外れた北西側の端部に位置しているにもかかわらず、予想量を上回る土器片と家の跡や柱穴、溝、墓などが発見されています。

今後は、防御のために集落の周囲に濠(ほり)を廻らせた環濠(かんごう)の発見や、阿蘇の弥生遺跡における特徴の一つである鉄器の出土量増加に期待がかかります。

土日祝日と雨天以外の日は見学可能ですので、現地の調査員にお尋ね下さい。

\*新年度は5月の連休明けから再開します。



歴史を肌で感じる……

▲市内の小学生らも授業の一環で発掘作業を体験。写真は山田小学校の皆さん。



▲甕(カメ)が複数重なり合って出土している状態